

動によって、被害者等にとって必要な情報の提供に努めている。さらに、加害者に対し意見の聴取等を行う期日、加害者に対する行政処分の結果について被害者等からの問い合わせがあった場合には適切に教示するなど、被害者等の心情に配慮した行政処分制度の運用に努めた。

検察庁では、被害者等に刑事事件の処理結果、公判期日等を通知する被害者等通知制度を実施しているほか、全国の各地方検察庁に被害者支援員を配置して被害者からの様々な相談への対応、法廷への案内・付添いなど各種の手助けや、被害者の状況に応じて精神面・生活面・経済面等の支援を行っている関係機関や団体の紹介を行うとともに、犯罪被害者保護制度について分かりやすく説明したパンフレットを検察庁等に備え付けるなどの支援業務を行った。

また、被害者等に対する不起訴事件記録の開示に

についても弾力的な運用を図った。

イ 交通事故被害者等の声を反映した講習等の推進  
運転免許に関する各種講習において、被害者等の手記集やビデオを活用するほか、被害者等の講話を取り入れるなどにより、講習において被害者等の声を反映させ、交通事故の悲惨さを受講者に効果的に理解させる施策の推進を図った。また、被害者等の手記を取りまとめた資料等については、交通安全推進団体等にも配布し、交通事故の悲惨さの紹介に努めた。

ウ 交通事故被害者支援事業の実施

国民が互いに支え合う、安全で安心できる交通社会を形成することを目的として、支援担当者用のテキスト及びビデオの作成、被害者の精神的回復を目的とした自助グループの立ち上げ支援及び、海外の先進的組織への専門家の派遣を実施した。

## 第8節 科学技術の振興等

### 1 道路交通安全に関する研究開発の推進

#### (1) 内閣府本府の調査研究

次期交通安全基本計画の更なる充実を図るため、交通事故の長期予測に関する調査研究を実施した。

#### (2) 警察庁関係の研究

ア 高度道路交通システム（ITS）に関する研究開発の推進

##### (ア) 交通管理の最適化

交通流・量の積極的かつ総合的な管理を行い、交通の安全性・快適性の向上を図るため、環境に対応した信号制御手法、カーナビゲーション装置等への交通情報提供システム等の研究開発を推進した。

##### (イ) 信号制御の高度化

現行の信号制御方式に代わり、個々の信号機において、交差点に到達する交通流を予測して制御する新たな信号制御方式を導入するための実証実験を行い、信号制御の高度化に関する手法の研究開発を推進した。

##### (ウ) 安全運転の支援

交通管制システムのインフラ等を利用して、運転者に対し、周辺の交通状況等をカーナビゲーション

装置を通し視覚・聴覚情報により提供することで危険要因に対する注意を促し、ゆとりを持った運転ができる運転環境を創り出すことにより、交通事故の低減を図る安全運転支援システム（DSSS）の研究開発を推進した。

##### (エ) 駐車問題への対応

デジタルカメラの画像処理技術を活用し、違法駐車車両の検出から違反立証に必要な書類作成までの一連作業を自動的に処理することができるシステムの研究開発を推進した。

##### イ 横断歩行者の安全確保

視覚障害者、高齢者等の安全な道路横断を支援するため、横断歩道上に点字ブロック様の突起物を設置した「エスコートゾーン」と横断歩道上を面的に計測することが可能な歩行者センサーの研究開発を推進した。

##### ウ 高齢者、身体障害者の安全性向上対策に関する研究

高齢者、身体障害者の交通行動を調査・分析し、信号機、横断歩道、標識・標示等の交通安全施設の整備によって高齢者及び身体障害者の安全性を向上

させる方法を研究した。

#### エ 長時間運転による疲労に関する研究

運転シミュレーター等を利用して長時間運転が運転能力に与える影響について、認知、判断、操作等に関する心身特性や、脈拍、血圧等の生理的特性等に着眼して研究した。

#### オ カーナビゲーション装置が運転に与える影響に関する研究

カーナビゲーション装置を利用する場合の運転行動を、ドライビングシミュレーターを使用して実験し、平面図方式や鳥瞰図方式等異なる表示方式の画面が運転特性に与える影響等を明らかにした。

### (3) 総務省関係の研究

ITSにおける高速インターネット（インターネットITS）を実現するための研究開発及びITS情報通信技術の国際展開に関する調査開発等を行った。

また、安全運転支援のためのミリ波ITS情報通信技術の研究及び高齢者・障害者の移動を支援するロボティック通信端末（RCT）の研究を行った。

### (4) 文部科学省関係の研究

独立行政法人防災科学技術研究所において、冬期における道路交通の確保等に資するため、吹雪、雪崩等の雪氷防災に関する研究を行った。

### (5) 経済産業省関係の研究

自動車の安全性能を高めるための車間距離制御システムや前方車両追突警報システムといったITS技術を利用した機構・装置等を国際標準化するため規格化事業を実施した。

また、自動車の安全性の向上に資する情報通信基盤整備のため、移動体インターネット通信技術に関する研究開発等を実施した。

### (6) 国土交通省関係の研究

#### ア 国土交通省本省の研究

##### (ア) 物流の効率化の支援

物流の効率化を図るため、商用車が効率的に運行するために必要とする道路情報等を提供するシステムの研究開発を行った。

##### (イ) 道路管理の情報化

道路管理の効率化や交通の信頼性確保の観点からの情報化を推進した。地理情報システム（GIS）の標

準化動向を見極めつつ、道路関係データの形式の統一化、データベースの整備など道路交通全般にわたり共通して道路情報を効率的に利用、提供できる環境整備を推進した。また、特殊車両等の適切な管理を行うため、通行許可申請等の電子化や通行経路・車両諸元の把握などを行うシステムの研究を推進した。

##### (ウ) 公共交通の支援

バスのリアルタイム運行情報について複数のバス事業者の情報を統合的に提供することが、バス利用者の利便性向上に有効であることを実証するための実験を行った。

#### イ 国土技術政策総合研究所の研究

##### (ア) 高度道路交通システムに関する研究開発

情報通信技術（IT）を活用し、人・車・道路のコミュニケーションによって、より安全で快適な移動を支援するため、各種ITSサービスの研究開発を進めるとともに、システムの共通的な基盤の構築、国際標準化活動の支援等を積極的に推進した。

##### (イ) 道路交通情報収集提供の高度化

ETC通信技術を活用した多様なITSサービスを共通の車載器で実現することを目指し、休憩施設等でのカーナビへの情報提供などの公共サービスの試行、民間サービスへの支援などにより官民一体の取り組みを推進した。

##### (ウ) 路車協調による走行支援

道路と車両が連携して、ドライバーへの情報提供や危険警告等を行う走行支援システムの技術について、民間企業からなるAHS研究組合との連携の下、実証実験を実施するなどの研究開発を推進した。

##### (エ) システムの共通的な基盤（プラットフォーム）の構築

ITSを構成するシステム間の互換性を確保するための道路管理者間の通信規約（プロトコル）等の基準類の整備を行い、全体として有機的に連携した統合的なシステムを効率的に構築するための研究開発を推進した。

##### (オ) 国際標準化活動の支援等

ITS世界会議等の国際会議や二国間レベルでの情報交換を行うなど、国際的な視野からの取組を推進した。また、国際標準化機構（ISO）の国際標準化活

動に対して支援を行い、日本のシステムの国際標準化を図るとともに、既存国際標準との整合を図った。

(カ) 道路空間の安全性向上に資する研究

交通安全対策のより効果的、効率的な実施に資するために、交通安全対策の工種別効果分析に基づいて対策実施箇所の状況に応じた「効果的な対策工種選定方法」に関する研究、「面的安全対策」に関する研究、先進諸外国の動向を踏まえた「交通安全に関する施策・マネジメント」に関する研究を推進した。また、既存道路における交通安全事業について、事前調査、対策立案から事後評価までの実施を支援するとともに、事業で得られた情報・ノウハウを蓄積・活用することにより、事業実施後の道路の安全性を向上させるためのシステム構築についての研究を行った。

ウ 気象庁気象研究所等の研究

道路交通の安全に寄与する気象情報等の精度向上を図るため、気象庁気象研究所を中心に、気象・地象・水象に関する基礎的及び応用的研究を行っている。主な研究は、以下のとおりである。

(ア) 非静力学モデル(NHM)の高度化と同化技術の改善に関する研究

局地的豪雨等をより精度良く予測するため、非静力学モデルの高分解能化及びそれをを用いた同化実験の改善、地形の影響による集中豪雨の再現実験等に関する研究を行った。

(イ) 東海地震の予測精度向上及び東南海・南海地震の発生準備過程の研究

数値シミュレーション手法の高度化による東海地震の予測精度向上、及び、新たな観測・監視手法の開発による東南海・南海地震の監視体制の強化に関する研究を行った。

エ 独立行政法人交通安全環境研究所の研究

(ア) 自動車の情報提供装置の高度化技術に関する研究

カーナビゲーション装置等の車載情報提供装置の安全性に関して、運転者の視聴覚情報処理能力の観点からの検討を行った。視覚と聴覚を同時に呈示し

たときの心理的負荷の程度の差異を計測するとともに、複数の聴覚情報が同時に呈示されたときの弁別に関する評価実験を行った。

(イ) 高齢者に対する支援システムの受容性に関する研究

高齢運転者のヒューマンエラーによる事故を低減するための支援システムについて検討を行った。高齢運転者の事故のマクロ的分析を行うとともに、緊急時におけるブレーキ反応遅れの解析、車載表示装置注視時の前方認知能力の低下に関する室内評価実験を行った。

(ウ) 自動車の側面衝突時の乗員保護性能に関する調査研究

車高の高いSUV等が車高の低い一般乗用車に衝突した場合の乗員傷害を軽減することを目的として、小型SUVまで想定したAE-MDBによる側面衝突実験、現行のMDBによる側面衝突実験を新型のダミーの搭載も含めて実施した。これらの結果から、側面衝突試験法の改善のための基礎データが得られた。また、乗員頭部の車室内への動的衝撃緩和試験法検討のためのデータが得られた。

(エ) 急制動時の倍力装置(ブレーキアシスト)に係る基準策定のための調査研究

ブレーキアシストシステムは、緊急制動時にドライバーが十分な力でブレーキを踏み込めない場合に自動的にブレーキ力を増加させる運転支援システムである。同システムの機能・性能、ドライバーへの受容性、基準策定のための問題点等について検討を行うため、システムの動作特性、ドライバーの制動特性等について実車走行実験を実施して資料を得た。

(オ) 歩行者保護性能に係る基準策定のための調査研究

自動車の歩行者保護性能に係る基準を策定することを目的として、歩行者脚部インパクト試験法及び、歩行者保護GTR案の検討等を行った。

オ 独立行政法人北海道開発土木研究所の研究

(ア) 積雪寒冷地における道路・舗装構造等に関する研究

歩行者脚部インパクト試験法

現行の頭部を模擬したインパクト(衝撃子)に加え、歩行者の脚部を模擬したインパクトを使う試験法

冬期路面对策としての凍結防止剤等の散布・選定基準，摩擦係数による路面管理手法の検討及び滑りを抑制する舗装技術，路面の粗面化等維持管理技術の検討を行った。また，北海道の地域特性に適した高規格道路の構造及び排水性舗装について検討を行った。

(イ) 北海道における重大事故防止に関する研究

北海道特有の郊外部における死亡事故や積雪寒冷な気象条件に起因する重大な交通事故について，交通事故分析システムにより要因分析及びランブルストリップの試験施工等の対策の検討を行うとともに，視程障害時におけるドライバーの運転挙動及び道路・気象情報提供の在り方に関する基礎試験・検討を行った。また，苛酷な気象条件下における防雪施設の有効性及び雪崩発生危険度評価方法の検討を行った。

(ウ) インターネット技術を活用した道路情報システム，冬期道路の安全走行支援システムに関する研究

積雪寒冷地における高度道路情報システムへのXML技術の活用方法について検討を行った。また，安全走行支援システムにおける積雪寒冷地に適した検知及び情報提供技術の検討を行った。

(エ) 冬期道路における人の挙動に配慮した技術に関する研究

冬期歩行空間におけるバリアフリー等に関する文献・アンケート調査，ドライバーの運転挙動等に関する検討を行った。

## 2 道路交通事故原因の総合的な調査研究の充実・強化

警察庁では，効果的な交通事故防止対策を講じていくための総合的・科学的な事故調査分析の在り方

について検討を行った。

国土交通省においては，科学的な分析に基づく事故対策を推進するため，「交通事故対策・評価マニュアル」及び「交通事故対策事例集」を作成し，個別の事故対策の立案・実施に活用している。

また，道路交通法の交通事故調査分析センターの指定を受けている(財)交通事故総合分析センターは，官民それぞれが実施する交通安全対策をより一層効果的なものとし，安全で快適な交通社会の実現に寄与するため，交通事故と人・道・車に関する各種の分析・調査研究を行っている。

同センターでは，交通事故，運転者，道路，車両等に関する各種データを統合したデータベースを作成し，幹線道路において事故が多発している地点を抽出するなど，交通安全対策に直結する多角的なマクロ(巨視的)統計分析を行っている。

交通事故の原因をより総合的かつ科学的に検討するために，主に茨城県つくば市及び土浦市周辺で，実際の交通事故現場への臨場や医療機関との連携による事故例調査(ミクロ(微視的)調査)を実施し，マクロ(巨視的)，ミクロ(微視的)両面からの総合的な交通事故分析・調査研究を進めている。

また，平成16年度には，出会い頭事故における人的要因に関する調査研究等各種の調査研究を実施するとともに，第7回研究発表会を開催するなど活発な調査研究活動を展開した。

なお，同センターの調査研究の成果は，それぞれ報告書としてまとめられ公表されるほか，小冊子「イタルダ・インフォメーション」として関係機関・団体に配布され，広く一般に紹介されるなど交通安全意識の高揚に貢献している。

### ランブルストリップ

道路区画線に沿って凹型のくぼみを連続して配置し，これを踏んだ車両に不快な振動や音を発生させ，車線を逸脱したことを警告する交通事故対策

#### 「交通事故対策・評価マニュアル」

事故多発地点緊急対策事業等これまでの事故対策の結果をもとに，対策の立案から評価までの手順や留意点等を体系的にまとめたもの

#### 「交通事故対策事例集」

事故多発地点のうち557箇所における事故要因分析結果，事故対策事例を収集し，道路特性や事故類型毎に，事故要因ならびにそれに対応した事故対策について分析し，その結果を事例集としてまとめたもの